

# 「マイケツタ」見参!

(前号よりつづく)

エアソール金属探傷剤は、大きく浸透探傷剤と磁粉探傷剤に分けられる。浸透探傷剤とは、試験対象の材質にかかわらず、殆ど全ての材料・製品の表面検査に使用可能。試験体の表面に開口している微細なキズに、見えやすい色や輝きを持たせた浸透性のよい液体(浸透液)を浸み込ませ、再度表面に吸い出すことによりキズを拡大して見つけ出すことができる方法である。染色探傷と蛍光探傷方法があり、それぞれ洗浄剤(除去剤)・浸透剤・現像剤の3液が用いられる。一方、磁粉探傷試験とは、鉄鋼など強磁性材料の表面および表面近傍のキズを検出するのに適した方法。試験

体を磁化した場合、表面に磁粉を散布すると磁粉はキズの部分に発生する漏洩磁束に付着する。付着した磁粉によって、実際のキズの幅と比較し数倍から数十倍の幅のキズによる指示模様がで、容易に目視観察でキズが検出できるようになる。新型コロナウイルス禍は、エアソール金属探傷剤市場においても例外なく影響を与えている模様。日本エアソール協会調べによる国内生産量は、2019年の3億7千2百万から20年2億9千9百万へ、そして21年3億9千1百万と推移している。同市場を牽引するマークテックの常務執行役員クロール・長である市川大介氏は、市場動向として「202

1年の国内市場は、コロナ禍により減速した前年から概ね回復基調にあった。カテゴリー別に見ると、自動車向けは、半導体の不足の影響もあり工場の稼働が停止した影響も

## マークテック

その2

1年の国内市場は、コロナ禍により減速した前年から概ね回復基調にあった。カテゴリー別に見ると、自動車向けは、半導体の不足の影響もあり工場の稼働が停止した影響も

あるが、原子力発電所が停止している影響は引き続き存在している。今年の見通しとしても、コロナ禍が続いていること、特に海外の工場が止まっている影響で世界的なサプライチェーンの混

お客様には販売価格への転嫁をお願いしているところだが、適正価格の維持にご理解を頂く事に注力する」と語っている。同社のエアソール製品において主力となるのは染色浸透探傷剤「スーパ

「低ハロゲン・低イオウタイプ」、そして「不燃性・非危険物」と大きく3つのタイプに分かれ、用途・目的によりさまざまな組み合わせが可能となっている。また2021年、マークテックは

「低ハロゲン・低イオウタイプ」、そして「不燃性・非危険物」と大きく3つのタイプに分かれ、用途・目的によりさまざまな組み合わせが可能となっている。また2021年、マークテックは

## 幅広いラインナップ 幅広のライオンナップ 磁粉探傷剤を新発売

有機則、PRTT など環境規制対応

「エコー」シリーズ「エコー」シリーズ「エコー」シリーズ

「エコー」シリーズ「エコー」シリーズ「エコー」シリーズ



環境配慮型「エコー」シリーズ「エコー」シリーズ「エコー」シリーズ

「エコー」シリーズ「エコー」シリーズ「エコー」シリーズ

「エコー」シリーズ「エコー」シリーズ「エコー」シリーズ